

併用禁忌、使用上の注意について

平成28年3月現在

【本別紙使用の注意点】

本別紙は、『熊本県針刺し切創・皮膚粘膜曝露後の抗HIV薬服用マニュアル』の一部であり、HIV感染予防配置薬を使用時の参考資料で、通常の添付文書等とは一部内容が異なる。
予防薬使用者へ提示される場合は、その旨を十分配慮し、内容等に誤解のなきよう使用する。

* 抗薬は、他剤との相互作用が問題となる場合があり、服薬開始時には必ず、内服している薬の有無、市販薬や健康食品・サプリメント等について聴取し、相互作用を確認する必要がある。

* 以下は、HIV曝露時の熊本県抗HIV薬服用マニュアル（『熊本県針刺し切創・皮膚粘膜曝露後の抗HIV薬服用マニュアル』）に準じた感染予防薬服薬開始時ならびに専門医受診までの参考とするものであり、必ず、専門医受診時には、改めて既往歴や服用中の薬剤、市販薬や健康食品・サプリメント等について相談するよう予防薬使用者に説明する。

* その他、予防薬使用時は、B型肝炎の感染、妊娠有無、腎機能に注意が必要。

予防薬使用者には、勤務先所属病院での検査をマニュアルに従い受ける必要がある旨伝える。

* 予防内服の期間を含む一定期間の避妊が必要となる。

アイセントレス錠 400mg



アイセントレス錠はラテグラビルを含む。ラテグラビル（RAL）は、主にUDP-グルクロシルトランスフェラーゼ（UGT）1A1によるグルクロン酸抱合にて代謝される。

【禁忌薬】

報告なし

【併用注意薬】

成分名：商品名（一部記載）

- **リファンピシン**：アプテシンカプセル 150mg、リファジンカプセル 150mg、リファンピシンカプセル 150mg「サト」等
- **マグネシウム/アルミニウム含有製剤**：**（キレート形成による RAL 吸収抑制 服用方法にて相互作用回避が必要）**
マグミット錠/細粒、マグラックス錠/細粒、酸化マグネシウム、重質酸化マグネシウム、マーロックス内服懸濁液/懸濁用配合顆粒、マーレッジ懸濁用配合 DS、マグテクト配合内服液、アイスフラット懸濁用配合顆粒、「純生」軽カマ、「純生」重カマ、「純生」炭マ、「純生」重炭マ、ウィットコップ懸濁用配合顆粒、タイムック配合内服液、ディクアノン懸濁用配合顆粒/配合内服液、アルサルミン細粒、重カマ「ヨシダ」、SM 散、つくし AM 散配合散、YM 散「他」、**「純生」合成ケイ酸アルミ、「純生」アルミゲル、アシドレス配合内服液、アルミゲル細粒、アルミワイス、エヌ・エス配合散、エピサネートG配合顆粒** 等市販薬（胃腸薬、制酸薬、下剤の一部等）やサプリメントにも注意

【避けた方がよい食品等】

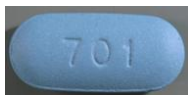
報告なし

【使用上の注意】

【相互作用回避の服用方法】

マグネシウム、アルミニウムを含むサプリメントや薬（胃腸薬、制酸剤、下剤の一部等）は、**アイセントレスと併用する場合、アイセントレス服用前後6時間を避けて服用するよう説明する。**

ツルバダ配合錠



ツルバダは、テノホビル（TDF）とエムトリバ（FTC）を含有する配合剤である。テノホビルは、糸球体濾過と尿細管への能動輸送により腎排泄される。尿細管への能動輸送により排泄される薬剤と併用した場合、この排泄経路における競合によりテノホビル又は併用薬の血中濃度は上昇する可能性がある。

【禁忌薬（併用禁止薬）】（添付文書には、重要な基本的注意として記載されている）

成分名：商品名

ラミブジン（ラミブジン含有製剤）：ゼフィックス錠、エピビル錠、エプジコム配合錠、コンビビル配合錠、トリーメク配合錠、

テノホビル（テノホビル含有製剤）：テノゼット錠、ビリアード錠、コンプレラ配合錠、スタリビルド配合錠

【併用注意薬】

成分名：商品名（一部記載）

アシクロビル：アシクロビル錠/DS/細粒/顆粒、アシビル内服ゼリー、
（内服・注射） ビクロックス錠/顆粒/シロップ/注射、ゾピラックス錠/顆粒/注射
アシロミン錠、アストリックドライシロップ
クロベート錠/顆粒/シロップ、ビルヘキサール錠/注射 等

バラシクロビル：バラシクロビル錠/顆粒、バルトレックス錠 等

バルガンシクロビル：バリキサ錠

ガンシクロビル：デノシン点滴静注用のみ

【使用上の注意】

【B型肝炎既往の確認】

B型肝炎の方がこの薬を服用後、中止するとB型肝炎が悪化するおそれがある。

【腎機能の確認】

専門医受診までに2回目以降の服用が必要となる場合で
検査の結果、腎機能低下が判明し、
クレアチンクリアランス（CLcr）が50mL/min 未満の場合
用量の調整等が必要。

クレアチンクリアランス（CLcr）	投与方法
50 mL/min 以上	1回1錠 1日1回（マニュアル通り）
30-49 mL/min	1回1錠 <u>2日間に1回</u>
30 mL/min 未満	専門医に相談する

※腎機能障害がある場合には、腎排泄型市販薬の併用にも注意が必要。

【参考】初期におこりやすい副作用について

- ◎ 予防薬使用者への副作用の説明は、薬剤供給施設の負担、予防薬使用者の心理的サポートを考慮し、原則、マニュアルに従い、専門医受診時に実施する。

すぐに専門医受診が不可能な場合は、「お薬の飲み方について 専門医受診までに、2回目以降を服用する方へ」（別紙：予防薬配置病院参考資料）を使用下さい。

- ◎ 薬剤供給時の参考として、アイセントレスとツルバダ配合錠を服用時の服用開始2週間までに発現の可能性が高い副作用は以下のとおり。
(添付文書 アイセントレス第11版 ツルバダ第8版より)

・ 発疹、そう痒感、過敏症

【対応】軽度発疹→服用継続可能。

症状が悪化→自己中断せず、各施設の医療事故担当医に相談して中断の是非を決める。

ラルテグラビル（アイセントレス）では、スティーブンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症を含む、重篤な皮膚反応が、海外の市販後調査で報告されているので注意する。

・ 消化器症状

(悪心、嘔吐、下痢・軟便、便秘、鼓腸、腹部膨満感(腹部にガスがたまる)、腹痛、胃炎等)

【対応】下痢や吐き気がひどく、日常生活に支障をきたしたり、嘔吐を繰り返す場合

→医療事故担当医に連絡。整腸剤や下痢止め、制吐薬の使用で軽減する場合がある。

・ 頭痛

【対応】持続する事は少ない。アセトアミノフェン（カロナール 等）等の鎮痛薬の使用で改善。

・ 疲労

・ 倦怠感

・ めまい

【対応】ふわとするような感じ、回転性のめまい等の症状 数日にわたり持続する事は少ない

・ 筋肉痛、脱力感、横紋筋融解症、ミオパチー

CK (CPK) 上昇

【対応】横紋筋融解症、ミオパチーがみられることがあるが因果関係不明。

必要に応じ、服用後CK (CPK) 値を確認。

・ 不眠症、傾眠、睡眠障害

・ 総ビリルビン上昇

・ AST、ALT 上昇

・ うつ症状

【対応】既往歴のある方、うつ症状を副作用にもつ薬剤を服用中の方は注意。

・ 異常な夢

※腎障害の既往歴、腎毒性のある薬剤を服用中の方：特に注意が必要

腎機能の低下がある場合には、ツルバダ配合錠の投与量の調整が必要（上記）。

服用開始後は、腎機能検査値、浮腫、尿閉等に注意する。

(参考)

短期間の予防服用による副作用は少ないが、これまでに、重大な副作用として以下の報告がある。

腎結石、薬疹、肝機能検査異常、汎血球減少、横紋筋融解、Stevens-Johnson 症候群、劇症肝炎 等

Infect Control Hosp Epidemiol. 2013 Sep;34(9):875-92.